



CIF JAPAN

NEWSLETTER No.42

2019/11/1 発行

Council of International Fellowship Japan

発行人 NPO 法人 CIF ジャパン 理事長 坂本 正路

編集人 坂岡 隆司 発行日 2019年11月1日

事務局 〒607-8216

京都市山科区勤修寺東出町 75 からしだね館

Tel.075-574-2800 Fax 075-574-0025

IPEP(国際研修)を成功させましょう

理事長 坂本 正路

来年は日本に於ける第3回目のIPEP実施を予定しています。すでに、研修最初の部分、日本の福祉についての講義については、同志社大学の木原先生の協力がいただける事になっています。また、現場研修についても幾つかの施設に協力していただける事が決まっております。

ところで、前号のニュースレターでも申し上げましたが、これを実施するためには人材と資金が必要です。会員の皆様には出来る範囲でのプログラムへの参加協力と活動資金への寄付をお願いいたします。私たちはかつてCIPないしCIFのプログラムに参加し、沢山の学びと経験をいたしました。今度は私たちがそれに報いる良い機会であると思うのです。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

それから、この7月にCIPUSAのラケル・カフードさんが再来日され、米軍の厚木基地で働かれる事になりました。前回、横田基地で働かれたときは独立記念日に私たちに招いてくださった事もあります。来年の日本に於けるIPEPの際にはラケルさんにも協力いただいて、より幅広い支援体制を組むことが出来れば幸いです。会員一同が力を合わせて来年のIPEPの実施に向けた準備を進めてまいりましょう。

第3回国際交換研修 (IPEP) 2020 準備会報告その①

去る8月31日、静岡県浜松市で、第3回IPEP実施に向けての第1回準備会が行われ、テーマ、期間、プログラムの骨子、参加費、申込要領等について協議しました。以下準備会の記録です。

日時: 2019年8月31日(土) 13:15~15:35
場所: 浜松福祉交流センター

出席者: 坂本、梶村、浅野、上利、坂岡、以上5名(敬称略)。

*準備会の協議を経て、募集要領(フライヤー)を作成し、10月1日国際本部へ送りました。間もなく(11月1日予定)国際本部のサイトにアップされます。

■ 第3回 IPEP 今後のスケジュール

2019年11月1日 募集開始

国際本部サイト掲載

2020年2月末日 応募締切

4月25日(土) 候補者選考会

4月末日 選考会結果通知

10月9日~10月24日 プログラム実施

■大きな課題の一つとして、**資金計画**のことが挙げられました。前回と同規模の事業を想定しますと、確実に事業費が不足します。資金調達については、いっそう会員各位のご協力を仰ぐ必要があること、また、準備期間中、さらにプログラム実施期間中の各種の**ボランティア**についても、会員の協力は絶対不可欠であること、等が確認されました。(坂岡記)

<2019年度会費納入ご協力のお願い>

本年度の会費の納入をお願いいたします。また、過年度の会費が未納の会員各位には併せて納入をお願いいたします。(年会費 3000円)

第3回 IPEP に向けて、ご寄付も歓迎します。同封の郵便振込用紙をご利用ください。

郵便振替口座 番号 00270-4-54121

加入者名 CIF ジャパン

銀行口座 三井住友銀行 八王子支店

(店番号 843) (普)7815136

口座名義 CIF ジャパン出納責任者 梶村 慎吾

CIF INTERNATIONAL の動き

CIF の活動 A.国際研修、B.国際大会、C.広報、D.組織運営と財政管理について代表者会議（2019年7月、フランス、サン・マロ）議事録をもとに報告します。

A.国際研修 2018年のInternational Professional Exchange Program 開催国はCIP/USA を含めて19か国、参加者は71名（2017年77名、2016年92名）。申請者は140名を超えていたので、研修参加を希望する人は多いのに約半数しか受け入れることができていないという課題がある。

B.国際大会 各国から大会主催の申し出が相次いでおり以下の大会を決定した。

2020年CIF創立60周年記念ワークショップ：オランダ 7月3日～5日

2021年第34回国際大会：インド

2023年第35回国際大会：ドイツ

C.広報 メール、ワールドニュース(WN)、ホームページ(HP)等で情報発信している。WNは本年よりインターネット配信のみとし、編集は引き続きキプロスの会員がボランティアで引き受けた。HPの管理は米国の業者(会員の知人)への委託検討を決議、HP検討ワーキンググループを立ち上げた。

D.組織運営と財政管理 2018年末のCIF加盟国は31か国と1団体(CIPUSA)。コンタクトパーソン登録国は12か国。会員数は621人。役員選挙では6人全員(フランス、オランダ、トルコ、ドイツ、フィンランド、エストニアの会員)が再選された。任期は2021年総会まで。



再選された役員6人

総会および代表者会議は年1回、役員会は年1～2回開催。今後の会議は以下のとおり。2020年代表者会議、役員会：モロッコ11月、2022年代表者会議、役員会：イスラエル、2021年と2023年は国際大会時に開催する。

CIFの財政はほぼ会費で賄われているが預金も取り崩している。支出の大半はWNの印刷費と役員および代表者の会議への出席旅費(一部自己負担)。経費節減のためWNの印刷取り止めを決定し、旅費の支出について検討を継続することとした。

なお、CIF本部では2年前に「CIF2028年委員会」を立ち上げ「CIFの将来のあり方」について協議しています。各国支部にアンケートをおこない、

会員の多様な意見を集約して2020年～2022年の行動計画を代表者会議で決議しました。ニュースレター次号で報告します。(浅野記)

Column この一冊

(西村隆著)

『神様がくれた弱さとおぼえみ』

坂岡隆司

(1987Cleveland)

先日、ふとした機会に、一冊の本を読みました。

『神様がくれた弱さとおぼえみー20編の小さな物語』(2004年、いのちのことば社)です。筆者は、西村隆さん。働き盛



りの人生の最盛期に、ALS(筋萎縮性側索硬化症)という難病を発症。徐々に様々な力を失って行きますが、そうした困難の中で、だからこそ見えてきた人生の深み、家族や周囲の人々とのあたたかいふれあいや小さな発見、弱さの持つ本当の意味・・・など、ユーモアたっぷりに(これは著者の天性のセンスだと思います)綴ったエッセイ集でした。

ところで、その中に「人生の寄り道」という小見出しのページがあり、そこに、CIPというプログラムで一年間アメリカに行って研修した、ということが書いてありました。それを見た瞬間、私は、ハッと思い当たったのでした。そう言えば、西村隆さんと言う方、CIFの名簿にあったような・・・。

さっそく調べてみますと、ありました、ありました!1989年コロンバス。さっそく、西村さんに手紙を出しました。すぐに西村さんから返信メールが来ました。著者の車いすにチョコと乗っていた、当時まだ幼かった息子さんが、何と今19歳とのこと。それから、パートナーの雅代さんが、福祉の専門家として活躍しておられ、私の仕事場(からしだね館)のこともすでにご存じだったこと等々、何とも嬉しい返信でした。・・・というわけで、皆さま、この一冊はお勧めです、是非是非ご一読ください。なお、本書のあとに『住めば都の不自由なしあわせ～沈黙から生まれる豊かな対話の中で～』(2013)が出されています。こちらもお勧めです。

それにしても、西村さんがCIPのOBであるということで、何だか私は、(勝手ながら)さらに親しみを覚えてしまった次第です。

《編集後記》

凄まじい台風と豪雨が列島を襲いました。皆さまのところはいかがでしたか?被災地のニュースに心が痛みます。地球環境の危機を訴えて、スウェーデンの少女が絞り出すように訴えた言葉が耳から離れません。